

「ディベロップメンタルケア (DC) 実践セミナー」開催のご報告

日本 DC 研究会では、より実践的な知識と技術の習得を希望する方に対して「DC 実践セミナー」を用意しております。この度、2019年11月6・7日の2日間において DC 実践セミナーが開催されました。NIDCAP トレーニングに基づく2日間の実践的なセミナーは、受講者にとって気づきと学びの多いものであり、また、セミナーを担当した研究会メンバー (NIDCAP Professional) にとっても、得るものが大きい貴重な機会となったようです。日本 DC 研究会では、DC 実践セミナーを通して、より高度の知識と実践力を備え、NICU や療育のチームリーダーとして活躍できる DC のプロフェッショナルを育成し、DC の進展と新生児医療の質の向上、そして赤ちゃんをご家族の幸福に貢献したいと考えています。受講をご希望される方は、日本 DC 研究会ホームページよりご案内 (https://japan-dcra.jp/pdf/dc_jissenseminar.pdf) を確認の上、お申し込みください。

■ 受講者の感想

● NIDCAP 観察を体験して、赤ちゃんがたくさん行動・表情を示しており、日頃、ケアをしている時に見ているようで気がついていないことに衝撃を受けました。観察を通して導き出した赤ちゃんの持つ強みや弱みは、修正週数や病状の枠にとらわれず、そこから導き出され推奨されるケアは、個別性があるケア内容となっており、大変感動しました。DC



たとえば、音を小さく、暗くして、KC を行うのではなく、赤ちゃんが何をしてもらいたいのか、赤ちゃんが何をしようとしているのか、個別のニーズに合わせた、環境調整、ケアパターン、ケアの内容が工夫されることが、DC の考え方であり、NIDCAP の観察 (または、その視点) DC の実践のために重要であることを実感することができました。この NIDCAP 観察の視点を今後のケアに活かしたいと強く思います。一方で、行動や State の把握は大変難しく、今後も学び深めたいと思いました。

● 実践セミナーから NIDCAP について知り、赤ちゃんの行動観察をするという今まで受け持ちをしながら見ていた視点ではなく、本当に赤ちゃんの立場に立ってケアをしたいという気持ちで今回参加させていただきました。実際に 52 分間、ただひたすら赤ちゃんだけを見るということは初めての体験で、時間があっという間に流れ、項目を埋める間もないくらい、赤ちゃんが様々なサインを出していたことにとても衝撃を受けました。今まで、自分がケアしてきた赤ちゃんにもきっと様々なサインを出していたはずなのに、沢山見落とし、自分本位の看護になってしまっていたのではないかと深く反省するとともに、それぞれの赤ちゃんの強み・弱みを見つけ、弱みをサポートし、強みを生かしていく、それぞれの個別を生かしたケアを考えるきっかけになりました。NICU で働いていると、脳の構造学的にも発達し、これからの未来を担う大切な時期に関わることで、楽しみでもあり、責任の重さも日々感じますが、今回の研修でより赤ちゃん優しいケアを考え、またそれを家族と一緒に相談しながら実施することで、赤ちゃん、親子中心の病棟にしていきたいと思いました。また、講義の中で「NIDCAP ツアー」という言葉を知り、家族の立場になった時に、Welcome な雰囲気、病棟になっているか、スタッフにとって、働きやすい環境になっているのかまで考えが及ばなかったことで、病棟内の環境調整も、赤ちゃんにとって大事な要素だと考え、DC チームとして、できることからしていきたいと思えます。今回 52 分間赤ちゃんをじっと観察して、様々なサインを出す様子を見ることで、赤ちゃんを今まで以上に愛おしく感じ、早く自分の病棟の赤ちゃんに会いたい！NICU って楽しいと思うことが出来ました。

